



社長のひとりごと…

当誌『わいわいくらぶ』は、当社の大切なお客様のために、わたしたち藤本工務店のスタッフがお伝えさせていただきますコミュニティー誌です。

『真っ白な心』



我が家の駐車場の一部は、前面の道路から玄関に向かって急な下り坂になっている。日常生活の上り下りでは何の不自由も感じないが、雪が降れば話は別！一瞬にしてスキー場のジャンプ台状態となり、ブレーキ操作を一步間違えると、車ごと玄関の中までお邪魔出来そうな勢いである。事実、路面が凍った夜の帰宅時には、何度も”着地？”に失敗し、玄関戸のガラス修理によってサッシ屋さんの売上に貢献してしまっている始末である。最近、刺激の足りない人にとってはお勧めのレジャースポット（笑）であるが、私にとっては平地の駐車場というものがうらやましくて仕方ない。何せ、この時期、我が家の恒例行事となっている朝・夕の急な坂での雪どけはこの上ない重労働なのだ。

そんな折、先日の日曜日のこと、大雪の降り積もる中、村の班長さんから”公会堂・お寺などの屋根雪降ろし”の要請がかかり、村人が集められた。当然、私も一家の代表として参加させて頂いた。「高い所の作業ですので、十分に注意して下さい。」という開始の挨拶の後、私が率先して登った先は”平屋”、つまり一階の屋根である。昔は7~8メートル上の細い木の上でも、涼しい顔して平気で歩いたものだが、最近では登る気がしない。正直なところ、恐いのである。

また、こんな大勢での奉仕作業の時には、結構人間性が出るもので、以外な人が黙々と一生懸命動いている姿に感心させられたりする。これには頭が下がるばかりである。それに比べ私などは、無意識に楽な方へ楽な方へと流れているのではないか……。そんな訳で、晴れ晴れとした気持ちの良い汗をかけないままに、作業は終了となった。

ここで、心と隣近所を見渡せば、屋根雪降ろしをしていないのは我が家だけである。どの程度の積雪までは大丈夫という、家の強度を認識しているせいもあるが、迷ったあげく降ろす事にした。万が一、積雪で屋根垂木でも折れようものなら、職業柄、格好がつかない。そんな世間体を気にする気持ちが働いた事は言うまでもない。

さて、いざ屋根雪降ろしを始めてみると、雪の量は以外に多く、かなりの重労働。OBさんのお宅の様子も気になるが……。連日の除雪作業で疲労はピークに達し、とても回れそうもない。なので、今は深く考えず、黙々と目の前の屋根雪降ろしに専念することにする。

恐る恐るの作業中、家内が温かいコーヒーを入れてくれた。”へえ~こんな優しいところもあるんだ~”と、今日一番の驚きであり、ここ近年で一番おいしいコーヒーに感じた。しかし、調子をこいて「おかわり！」とでも言おうものなら、「自分で入れたら！」と言われそうな気がして、一杯で止めにしたが、人の真心に接してもこんな余計なことばかり考えてしまう有様である。情けないな……。

当分、降り積もるこの雪のような、”真っ白な心”には成れそうもない……。

ではまた、来月もお会いしましょう。
今回も最後まで読んでいただき……、

あっぱれ
ございました!!

